北陸用地だより

第９２号

令和８年３月５日

～お知らせ～

年度末で何かと気ぜわしい時期となりました。業務委託の納品や完了検査などで、ビジネス手帳の行事欄もいっぱいになっているのではないでしょうか。最後の締めくくり、どうぞよろしくお願いいたします。桜の便りも、もうすぐそこまで来ています。

社内イントラ「クロジカ」に掲載しましたが、今年のさくらの開花は、平年より早いところが多いようです。
東日本では、10月は平年より高め、11月は平年並み、12月は平年より高め、1月は平年並み、2月は平年よりかなり高めの気温となりました。
3月も平年より高めの気温が予想されています。
花芽が目覚める時期はおおむね平年並みの見込みですが、開花時期は平年より早くなるとのことです。
3日時点での管内の開花・満開情報は以下のとおりです。
金沢：成長率46%（花芽からつぼみに成長中）
　開花 3/31　満開 4/7
富山：成長率46%（花芽からつぼみに成長中）
　開花 3/31　満開 4/6
新潟：成長率43%（花芽からつぼみに成長中）
　開花 4/5　満開 4/11
そろそろ花見の計画でも立ててみましょうか。

桜にまつわる四方山話
春といえば桜。誰もがよく知っている身近な花ですが、実はバラ科の植物であることをご存じでしょうか。
桜はバラ科サクラ属に分類され、その中でもモモやスモモなどの仲間を除いたものを、一般的に「サクラ」と呼んでいます。日本では、ソメイヨシノやヤマザクラを中心に約10種類を基本とし、変種や品種を含めると約100種類ものサクラが見られるそうです。さらに、人の手によって園芸用に品種改良されたサクラも200～300種類あるといわれています。ひと口に桜といっても、実に奥が深いですね。いつか機会があれば、さまざまな桜を見比べてみたいものです。
なお、立木補償に係る標準単価の簡素化は、令和9年度から実施予定とのことです。

先日、新幹線に乗った際、JRのリーフレットにあった「旅は思想を鍛え、足跡は歴史を刻む　日本を動かした三英傑（さんえいけつ）」という見出しに目を引かれ、ページをめくりました。そこには、松尾芭蕉、伊能忠敬、吉田松陰が秋田を歩いた足跡が綴られていました。
特に興味をひかれたのは三人の旅のルートで、いずれも新潟を経由している点でした。
芭蕉は元禄2（1689）年、忠敬は享和2（1802）年、松陰は嘉永4（1851）年に、それぞれ江戸を出発しています。忠敬は測量が目的であったとしても、他の二人がなぜ地形や気候の厳しい日本海側の新潟を経由したのか、興味が湧きました。
芭蕉は『奥の細道』の旅で出雲崎にて
「荒海や 佐渡によこたふ 天の川」
と詠み、荒れ狂う日本海の向こうに横たわる佐渡島と、その上に広がる天の川を描写しました。私が特に好きなのは、越中との国境に近い市振で詠んだ
「一家（ひとつや）に 遊女も寝たり 萩と月」
の句です。芭蕉はこの後、富山、石川へと足を運んでいます。
忠敬は1802年と1803年の測量で越後を訪れ、上越沿岸や佐渡島を実測し、『大日本沿海輿地全図』の作成に大きく貢献しました。享和2年には高田城下を経由し、享和3年には出雲崎から佐渡へ渡航しています。また、関川村の光兎山なども調査しており、県内各地に精密な地図という足跡を残しました。
松陰は嘉永5（1852）年の東北遊学の際、新潟（越後）を通っています。北国街道を歩き、出雲崎や新潟湊を訪れて佐渡を遠望したほか、会津街道の諏訪峠を越えて会津へ向かいました。厳しい雪道や異郷での体験は、のちの彼の見聞を広め、思想形成にも大きな影響を与えたと考えられます。
ところで「三英傑（さんえいけつ）」といえば、一般には戦国時代の三武将、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を指す言葉と思っていましたが、このように文脈によって別の三人を指す表現としても用いられるのですね。

年度末もあとわずか　よろしくお願いいたします　！

「ウィークリースタンスの徹底を」お願いします
①昼休みや１６時以降開始の打合せは行わない
②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない
⑤ランチタイム・オーバーファイブ・ノーミーティング
⑥イブニング・ノーリクエスト　（⑤、⑥：R5.６から）

○必見！　当社 ホームページをご覧ください！　新たな情報等があれば教えて下さいね！
www.hokurikuyouchi.co.jp

○お願い！　「クロジカ」を活用しましょう